

デジタルワイヤレス パッケージ

取扱説明書

DWZ-B50I

DWZ-B50GB

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、

火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しております。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

商品の構成	3	主な仕様	29
DWZ-B50I	3	DWZ-B50I/B50GB	29
DWZ-B50GB	4		
特長	5	保証書とアフターサービス	31
DWZ-B50I	5	保証書	31
DWZ-B50GB	5	アフターサービス	31
ZTX-B01	5		
ZRX-HR50	6		
各部の名称と働き	6		
電源	10		
電池を入れる	10		
付属品の取り付け	11		
ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50) への付属品取り付け	11		
ボディーパックトランスマッター (ZTX-B01) への付属品取り付け	12		
マイクロホン (ECM-GZ1UBMP) の使用方法	12		
受信機の設定	14		
ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50)	14		
送信機の設定	18		
送信チャンネルを設定する	18		
チャンネル表示	19		
チャンネル周波数リスト	20		
システム構成例	23		
DWZ-B50I の使用例	23		
DWZ-B50GB の使用例	24		
故障かなと思ったら	25		
使用上のご注意	28		
使用・保管場所	28		
お手入れ	28		

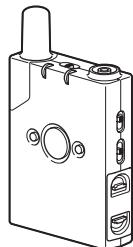
商品の構成

この取扱説明書は、ソニーデジタルワイヤレスパッケージ DWZ-B50I/B50GB に共通です。各パッケージの商品構成は次のとおりです。

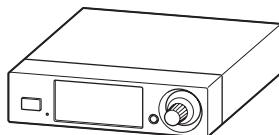
DWZ-B50I

ボディーパックトランスマッター（送信機：ZTX-B01）とハーフラックレシーバー（受信機：ZRX-HR50）にアコースティック楽器用マイクロфонを追加したセットです。

ボディーパックトランスマッター
(ZTX-B01) (1)

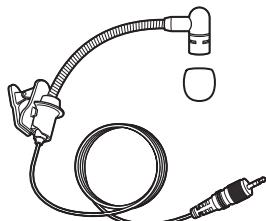


ハーフラックレシーバー
(ZRX-HR50) (1)

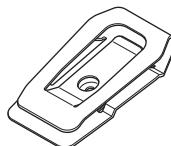


付属品

マイクロфон
(ECM-GZ1UBMP) (1)
• ウィンドスクリーン (1)



ベルトクリップ (1)



アンテナ (2)



ベルトクリップ固定ネジ
(1)
AC アダプター (1)

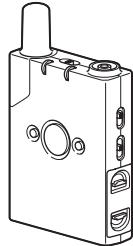
ご使用になる前に (1)
よりよい環境で
ご使用になるために (1)

クイックスタートガイド
(1)
取扱説明書 (CD-ROM)
(1)
保証書 (2)

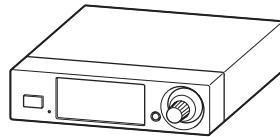
DWZ-B50GB

ボディーパックトランスマッター（送信機：ZTX-B01）とハーフラックレシーバー（受信機：ZRX-HR50）にギターケーブルを追加したセットです。

ボディーパックトランスマッター
(ZTX-B01) (1)



ハーフラックレシーバー
(ZRX-HR50) (1)

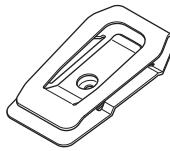


付属品

ギターケーブル (1)



ベルトクリップ (1)



アンテナ (2)



ベルトクリップ固定ネジ
(1)

ご使用になる前に (1)
よりよい環境でご使用になる
ために (1)

クイックスタートガイド
(1)
取扱説明書 (CD-ROM)
(1)
保証書 (2)

AC アダプター (1)

特長

DWZ シリーズは、ソニーが長年培ってきた高音質を実現するオーディオ技術、高い信頼性を確保するワイヤレス技術、そして最先端のデジタル信号処理技術を融合させた、デジタルワイヤレスシステムです。免許不要の 2.4 GHz 帯を使用し、多彩な機能を備えつつも簡単設定とシンプルで直感的な操作性を実現。使用用途に最適化されたパッケージを用意し、ワイヤレスシステムに不慣れな方からプロフェッショナルまで、幅広いユーザーの要求に応えます。楽器の持つ広大なダイナミックレンジを余すことなく収録できるマイクロホンを新たに開発しました (DWZ-B50I)。

高音質

音声の圧縮・伸長などの信号処理をしない、24bit 高音質リニア PCM デジタル伝送により、有線マイクに迫る高音質・高帯域伝送を実現します。

高信頼性

用途によって選択できる 2 つの RF モードとソニー独自の音声データ処理により、信頼性の高い無線伝送と無線 LAN との共存を実現します。2 つの RF モードはそれぞれ 6 チャンネルで構成されているため、用途に合わせた RF モードとチャンネルを選択して使用できます。また、レシーバーに 2 本のアンテナを装備し、受信状態の良好な方を自動選択するスペースダイバーシティ方式により、音切れやノイズの発生を抑えた安定した受信が可能です。

DWZ-B50I

サクソホンやトランペットなどの管楽器の集音に最適なマイクロホン、およびボディーパックトランスミッター（送信機：ZTX-B01）とハーフラックレシーバー（受信機：ZRX-HR50）各 1 点ずつの組み合わせです。

DWZ-B50GB

エレクトリックギター、エレクトリックアコースティックギターおよびエレクトリックベースなどに最適な、ボディーパックトランスミッター（送信機：ZTX-B01）とハーフラックレシーバー（受信機：ZRX-HR50）各 1 点ずつの組み合わせです。

ZTX-B01

堅牢な金属ボディのトランスミッターです。

ミューティング機能を備え、楽器入力とマイク入力の切り替えスイッチおよびアッテネーター調整機能により、幅広いオーディオ入力レベルに対応します。また、90 度ごとに向きを変えられるベルトクリップにより、使用状況に合わせてケーブルの出る向きを調節できます。

ZRX-HR50

高解像度の大画面カラーLCDを備え、高機能とシンプル操作を両立させたハーフラックレシーバーです。

ベストチャンネルセレクション機能およびクリアチャンネルスキャン機能により、素早く簡単に安全なチャンネル設定を実現します。また、ワイヤードとワイヤレスの音質をマッチさせるケーブルトーンジェネレーターを搭載。ワイヤレスにした際の、アンプ側のイコライザー調整を最低限に抑えます。さらに、5バンドのグラフィックイコライザーにより、幅広い音質調整が可能です。

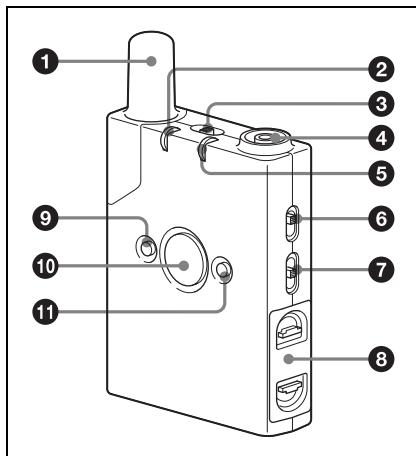
UNBALANCED/BALANCED

OUTPUT端子はミューティング機能の有効・無効を選択できます。

別売のラックマウントキットRMM-HRD1を使用することで、ラックマウントが可能です。

各部の名称と働き

ボディーパックトランシッター(送信機:ZTX-B01)



① アンテナカバー

アンテナが格納されています。

ご注意

アンテナカバーを握らないようにしてください。アンテナカバーを握ると送信する電波が弱まり、使用できる範囲が狭くなります。

② BATT(電池残量)インジケーター

電源がONになっているときに、電池の残量を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯(緑)	良好
点灯(赤)	ほとんど消耗している

電池の残量表示は、アルカリ乾電池を使用している場合の表示です。

③ 誤操作防止スイッチ

本機の POWER/MUTING (電源 / 消音) ボタンと CHANNEL SELECT (チャンネル選択) ボタンをロックします。誤って電源を切るなどの誤操作を防止できます。

LOCK : 各ボタンがロックされ、操作ができない状態になります。

UNLOCK : ロックが解除され、各ボタンの操作ができる状態になります。

ご注意

LOCK 状態のときは、電源を ON にすることもできません。UNLOCK 状態にしてから操作してください。

④ 音声入力端子

付属のマイクロホンを接続したり (DWZ-B50I)、付属のギターケーブルを使用してギターなどの楽器を接続します (DWZ-B50GB)。

⑤ AUDIO/MUTING (音声 / 消音)

インジケーター

音声信号の入力レベル、およびミュー
ティング機能の状態を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯（緑）	音声入力あり
点灯（赤）	音声の過大入力
消灯	音声入力が小さい、またはない
点滅（橙）	ミューティング（消音）ON

⑥ INPUT (入力切り換え) スイッチ

接続する機器にあわせて切り替えます。

INST : ギターなどを接続する場合。

MIC : マイクロホンを接続する場合。

ご注意

- 付属のマイクロホン ECM-GZ1UBMP および別売のマイクロホン ECM-HZ1UBMP/LZ1UBMP 以外のマイクロホンを接続すると、音が出ない、位相が反転するなどの現象が起こる場合があります。
- オーディオミキサーなどの音声を入力中に、このスイッチを「MIC」側に切り換えないでください。過大なレベルの音声が出力されると、音声のひずみや再生・録音機器の故障の原因となることがあります。

- ◆ 設定について詳しくは、「システム構成例」(23 ページ) をご覧ください。

⑦ ATT (アッテネーター切り換え) スイッチ

接続する機器にあわせてアッテネーターの減衰量を切り替えます。

減衰量 (dB)	使いかた
0	標準位置。
10	AUDIO/MUTING インジケーターがときどき赤く点灯するとき。
20	AUDIO/MUTING インジケーターが常に赤く点灯するとき。

⑧ 電池ケース

単3形電池 2 本を入れます。

- ◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電池を入れる」(10 ページ) をご覧ください。

⑨ POWER/MUTING (電源 / 消音) ボタン

本機の電源を ON/OFF します。また、ミューティング（消音）機能の ON/OFF もこのボタンで操作します。

機能	ボタンの操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上押す
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを押す
ミューティング ON	ボタンを押す
ミューティング OFF	

⑩ チャンネル表示部

送信チャンネルを表示します。

表示は、約 10 秒で消灯します。チャンネル選択ボタンを押すことで再度点灯させることができます。

- ◆ チャンネル表示について詳しくは、「チャンネル表示」(19 ページ) をご覧ください。

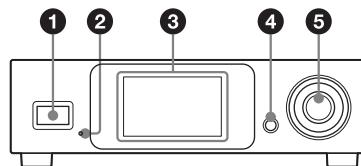
⑪ CHANNEL SELECT (チャンネル選択) ボタン

RF モードと送信チャンネルの選択に使います。

- ◆ RF モードと送信チャンネルの選択について詳しくは、「送信チャンネルを設定する」(18 ページ) をご覧ください。

ハーフラックレシーバー (受信機 : ZRX-HR50)

前面



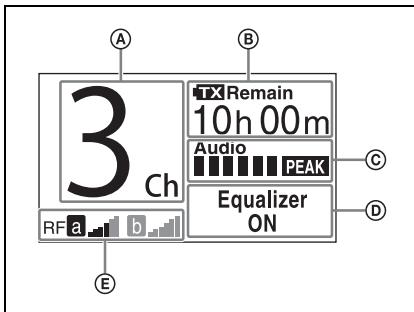
① POWER (電源) ボタン

本機の電源を ON/OFF します。

② POWER (電源) インジケーター

電源が ON になっているときに点灯します。

③ ディスプレイ部



設定情報などが表示されます。

Ⓐ 受信チャンネル表示

受信するチャンネルを表示します。

Ⓑ 送信機電池残量表示

送信機の電池残量を表示します。

おおよその使用可能時間を表示します。受信していないときには時間は表示されません。

④ 音声レベルメーター

音声レベルを表示します。

赤色のバーが表示され続けることがない
ように音量を設定します。

⑤ イコライザー状態表示

イコライザーの ON/OFF を表示します。

⑥ 受信レベルインジケーター

電波の受信状態を表示します。

表示されているバーが多いほど、安定し
て受信できる状態です。

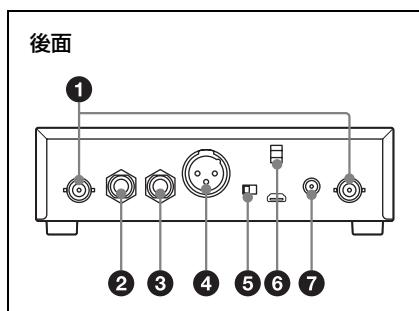
④ ESC (エスケープ) ボタン

操作をキャンセルしたり、設定画面から
通常画面に戻るときに押します。

⑤ ロータリーエンコーダー

設定を変更する際に使います。

- ◆ 設定の変更について詳しくは、「受信機の設
定」(14 ページ) をご覧ください。



① ANTENNA a/b (アンテナ) 端子 (BNC タイプ)

付属のアンテナを取り付けます。

② UNBALANCED OUTPUT

AUX/TUNER (音声出力外部) 端
子 (フォーンジャック)

モニター機器などの周辺機器との接続時
に使います。

送信機のミューティング機能が ON に
なっている場合でも、UNBALANCED
OUTPUT AUX/TUNER 端子からは音
が出続けます。UNBALANCED
OUTPUT AUX/TUNER 端子の音声は、
受信機側の画面上で ON/OFF できます。

- ◆ 設定方法について詳しくは、「出力端子の
ミューティング機能を設定する」(17 ページ)
をご覧ください。

- ◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成
例」(23 ページ) をご覧ください。

③ UNBALANCED OUTPUT MAIN (音声出力メイン) 端子 (フォーン ジャック)

ミキサーやアンプとの接続時に使いま
す。

- ◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成
例」(23 ページ) をご覧ください。

④ BALANCED OUTPUT (バラン ス出力) 端子 (XLR タイプ)

ミキサーなどとの接続時に使います。

- ◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成
例」(23 ページ) をご覧ください。

⑤ MIC/LINE (音声出力レベル) セ レクター

BALANCED OUTPUT (バランス出力)
端子の音声出力レベルを選択します。

MIC : 音声出力レベルをマイクレベルに
設定。

LINE : 音声出力レベルをラインレベル
に設定。

ご注意

オーディオミキサーなどへの音声の出力中に、このセレクターを「LINE」側に切り換えないでください。過大なレベルの音声が入力されると、音声のひずみや再生・録音機器の故障の原因となることがあります。

⑥ ケーブルクランプ

付属の AC アダプターのケーブルを留めるために使います。

⑦ DC IN 12V (12 V 電源入力) 端子

付属の AC アダプターを接続します。

電源

ここでは各機器の電源について説明します。

- ◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電池を入れる」(10 ページ) をご覧ください。

ボディーパックトランスマッタ (ZTX-B01)

単3形電池 2 本で動作します。

使用できる電池の種類は次のとおりです。

- アルカリ乾電池
- 充電式ニッケル水素電池
- リチウム電池

ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50)

付属の AC アダプターにて電源を供給します。

電池を入れる

注意

指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。

必ず指定の電池に交換してください。

使用済みの電池は、国または地域の法令に従って処理してください。

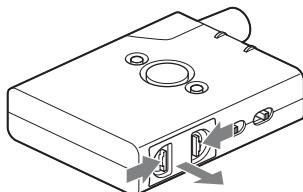
ご注意

- 電池は必ず同じ種類の電池を使用してください。違う種類の電池や残量の異なる電池を組み合わせて使用しないでください。

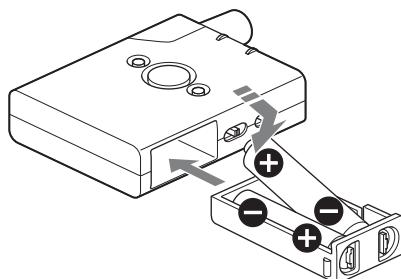
- 使用中に電池の交換を行うと、大きな雑音が発生します。電池の交換は、必ず電源を切ってから行ってください。

ボディーパックトランシッター (ZTX-B01)

- 1 POWER/MUTING (電源 / 消音) ボタンを長押しして、電源を切る。
- 2 2つの取っ手をつまんで同時に中央に寄せながら、電池ケースを引き出す。



- 3 新しい単3形電池2本の \oplus と \ominus を確認して入れ、電池ケースを戻す。



電池ケースが本体にしっかりとロックされていることを確認してください。

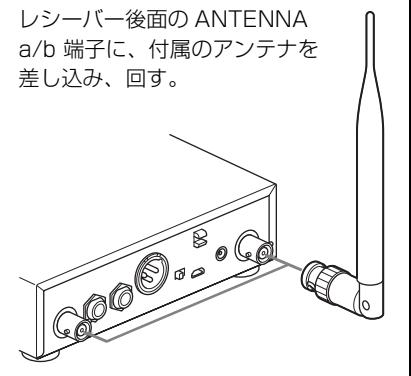
付属品の取り付け

ここでは、各機器への付属品の取り付けかたについて説明します。

ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50)への付属品取り付け

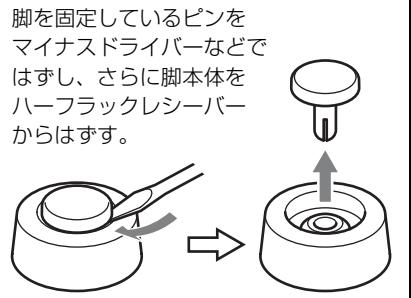
アンテナを取り付ける

レシーバー後面の ANTENNA a/b 端子に、付属のアンテナを差し込み、回す。



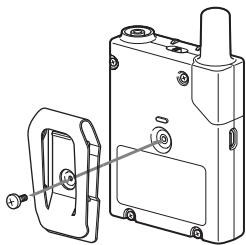
底面の脚をはずす

脚を固定しているピンをマイナスドライバーなどではずし、さらに脚本体をハーフラックレシーバーからはずす。



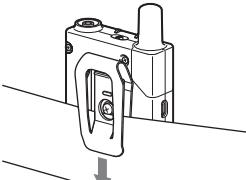
ボディーパックトランスマッター (ZTX-B01) への付属品取り付け

ベルトクリップを取り付ける



トランスマッター後面にある取り付け穴と付属のベルトクリップ中央にある穴の位置を合わせ、付属のベルトクリップ固定ネジを使って取り付ける。ベルトクリップは、180度および左右に90度回転させて取り付けることができます。

ギターストラップに取り付ける

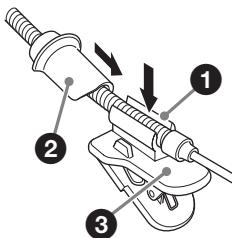


ギターストラップに本機のベルトクリップを奥までしっかりと差し込む。

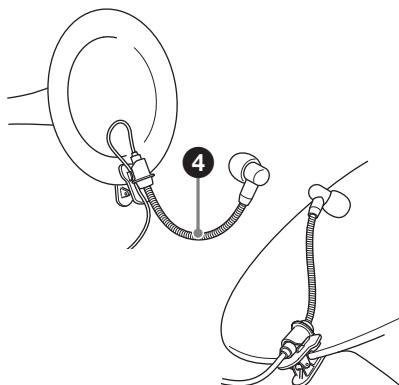
ご注意

取り付けるベルトの厚さや幅によっては、充分な取り付け強度が得られないことがあります。

マイクロホン (ECM-GZ1UBMP) の使用方法

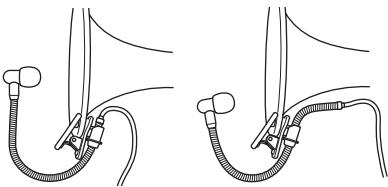


マイクロホンの向きや長さを調整してマイクホルダークリップの保持部（①）に挿入し、固定用キャップ（②）をかぶせてマイクホルダークリップ（③）に固定します。



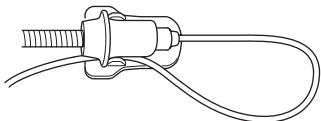
楽器の音が出る部分（管楽器のベルの部分など）にマイクホルダークリップを装着します。

グースネック（④）は、マイクホルダークリップに対して2方向に取り付けることができますので、楽器に合わせて選択してください。



また、グースネック（④）は自在に向きを変えられ、また長さも調整できますので、楽器の大きさやベルの形状に合わせて微調整が可能です。

マイクロホンの向きや位置によって楽器の音色が変わりますので、気にいった音色になるように取り付けてお使いください。



ケーブルが余る場合は、マイクホールダークリップの脇にケーブルを挟んでおくことができます。

ご注意

- ゲースネックは、極端にきつく曲げることはできません。
- マイクロホンを楽器に取り付けてから向きや長さを調整すると、楽器を傷めことがあります。楽器に取り付けたあとにマイクロホンの向きなどを調整する場合は、マイクホールダークリップを押さえながら行ってください。
- トランスマッターと接続してお使いになる際、マイクロホンをアンテナに近付けると雑音が発生することがあります。
- 楽器の音圧は非常に高いため、トランスマッターの ATT スイッチでアッテネーターの減衰量を調整し、音圧レベルを充分に下げた状態でお使いください。
- 風や振動などによる低域の雑音が気になる場合は、ワイヤレスレシーバーのイコライザーを調整し、低域を抑え気味にして使用してください。

メモ

DPA 社の d:vote および 4099 シリーズマイクロホン用の楽器取り付けアタッチメントを使用することができます。

これにより、より幅広い楽器に取り付けることが可能になります。

アタッチメントの詳細については、DPA Microphones の Web サイトをご確認ください。

DPA Microphones

[http://www.dpamicrophones.com/
en/Home.aspx](http://www.dpamicrophones.com/en/Home.aspx)

- ◆ 他社のアクセサリー製品とあわせてお使いの際、ご不明な点がありましたら、お買い上げ店、または「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

受信機の設定

ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50)

ハーフラックレシーバー ZRX-HR50 の設定を行う際には、ロータリーエンコーダーと ESC ボタンを使用します。操作方法は次のとおりです。

決定：ロータリーエンコーダーを押す。
カーソルを動かす：ロータリーエンコーダーを回す。

キャンセル：ESC ボタンを押す。

設定メニューを表示する

ロータリーエンコーダーを押すことで、ディスプレイに Setup (セットアップ) 画面が表示されます。Setup (セットアップ) 画面から通常画面に戻るには、ESC ボタンを押します。

受信チャンネルを設定する

DWZ は、Wide Band と Narrow Band という 2 つの RF モード (チャンネルモード) を用意しています。どちらの RF モードも 6 チャンネルで構成されているので、用途に応じて適切なチャンネルを選択できます。

RF モード	送信チャンネル番号	特長
Wide Band (WIDE)	1/2/3/4/5/6	他の無線機器への影響が少ないモードです。
Narrow Band (NARROW)	a/b/c/d/e/f	クリアチャンネルスキャンを使うことによって、他の無線機器からの影響を回避するのに適したモードです。

ご注意

多チャンネル（最大 6 チャンネル）で運用する場合には、Wide Band と Narrow Band の 2 つの RF モードを同時に使用することはできません。どちらか一方の RF モードを選択して運用してください。

RF モードを選択する

- 1 Setup (セットアップ) 画面で Advanced Settings を選択する。
- 2 RF Mode Settings を選択する。RF Mode Settings 画面が表示されます。
- 3 Wide Band または Narrow Band を選択する。
設定が完了すると、通常画面に戻ります。

チャンネルを選択する

- 1 Setup (セットアップ) 画面で Channel Setup を選択する。
Channel Setup 画面が表示されます。
- 2 以下のいずれかの方法でチャンネルを設定する。

ご注意

Ⓐ または Ⓑ の方法で設定する場合は、すべての送信機の電源を OFF にしてから操作してください。

Ⓐ Best Channel Selection (ベストチャンネルセレクション) を選択する

最も妨害電波が少ないチャンネルに、自動的に設定されます。多チャンネルで運用する場合には、以下のように送信機の電源を 1 台ずつ ON にしながら設定することができます。

- ① すべての送信機を OFF にする。
- ② 1 台目の受信機で Best Channel Selection を選択する。
- ③ 1 台目の送信機のチャンネルを合わせる。
- ④ 1 台目の送信機を ON にしたまま、2 台目の受信機で Best Channel Selection を選択する。
- ⑤ 2 台目の送信機のチャンネルを合わせる。

Ⓑ Clear Channel Scan (クリアチャンネルスキャン) を選択する

選択している RF モードの全チャンネルの状態が表示されるので、使いたいチャンネルを選択します。空きチャンネルがない場合には、「No Clear Channel」と表示されます。



表示	状態
白色文字（下線付き）	妨害電波が少ないチャンネル。
白色文字	比較的妨害電波が少ないチャンネル。
灰色文字	妨害電波が多い、または、ほかの機器が使用しているチャンネル。
No Clear Channel	使用可能なチャンネルがない。

Ⓒ Manual Setup (マニュアルセットアップ) を選択する

チャンネルを手動で設定します。使いたいチャンネルを選択します。

設定が完了し、通常画面に戻ります。

ご注意

チャンネルを変更した場合は、送信機も同じチャンネルに設定してください。受信機と送信機のチャンネルが一致していないと、音声が出ません。

ケーブルトーンジェネレーターを設定する

ケーブルトーンジェネレーターとは、ケーブルを使用して有線接続をしたときのような音質の特性変化をもたらす機能です。

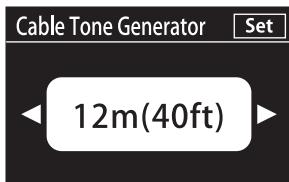
- 1 Setup (セットアップ) 画面で Audio Setup を選択する。

Audio Setup 画面が表示されます。

- 2 Cable Tone Generator を選択する。

Cable Tone Generator 画面が表示されます。

- 3 ケーブルトーンジェネレーターの数値を選択する。



普段使っているケーブル長に近い数値を選択してください。

OFF / 1m(3ft) / 1.5m(5ft) /
2m(7ft) / 3m(10ft) /
4.5m(15ft) / 6m(20ft) /
7.5m(25ft) / 9m(30ft) /
12m(40ft) / 15m(50ft) /
18m(60ft) / 21m(70ft) /

24m(80ft) / 27m(90ft) /
30m(100ft)

- 4 Set を選択する。

設定が完了し、通常画面に戻ります。

メモ

ケーブルトーンジェネレーターの回路は、イコライザー回路の前に配置されています。

イコライザーを設定する

- 1 Setup (セットアップ) 画面で Audio Setup を選択する。

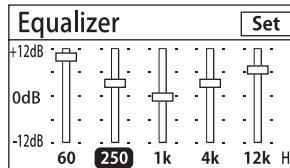
Audio Setup 画面が表示されます。

- 2 Equalizer を選択する。

Equalizer 画面が表示されます。

- 3 イコライザー機能を使用する場合は ON を、使用しない場合は OFF を選択する。

ON を選択すると、イコライザーの設定画面が表示されます。



OFF を選択した場合は、設定が完了し、通常画面に戻ります。

- 4 レベルを調整したい周波数を選択し、設定を変更する。

5 Set を選択する。

設定値が保存されます。

設定をキャンセルする場合は、ESC ボタンを押します。

出力端子のミューティング機能を設定する

各出力端子の音声出力に対して、送信機でコントロールするミューティング（消音）機能を有効にするかどうか設定することができます。

1 Setup (セットアップ) 画面で Audio Setup を選択する。

Audio Setup 画面が表示されます。

2 TX Muting を選択する。

Apply TX Muting 画面が表示されます。

3 ミューティング機能を有効にしたい端子を選択する。

端子 ディスプレイの表示	To All Outputs	To Balanced & Main Only	To AUX/Tuner Only
BALANCED OUTPUT			-
UNBALANCED OUTPUT MAIN	有効	有効	-
UNBALANCED OUTPUT AUX/TUNER		-	有効

設定が完了し、通常画面に戻ります。

電池種類を設定する

本機の送信機電池残量表示が正しく表示されるように、送信機で使用する電池の種類に合わせて本機でも電池種類を設定します。

1 Setup (セットアップ) 画面で Advanced Settings を選択する。

2 Battery Type を選択する。

3 電池の種類を選択する。

Alkaline：送信機でアルカリ乾電池を使用している場合。

Ni-MH：送信機で充電式ニッケル水素電池を使用している場合。

Lithium：送信機でリチウム電池を使用している場合。

設定が完了し、通常画面に戻ります。

送信機の設定

送信チャンネルを設定する

DWZ は、Wide Band と Narrow Band という 2 つの RF モード（チャンネルモード）を用意しています。

どちらの RF モードも 6 チャンネルで構成されているので、用途に応じて適切なチャンネルを選択できます。

RF モード	送信チャンネル番号	特長
Wide Band (WIDE)	1/2/3/4/5/6	他の無線機器への影響が少ないモードです。
Narrow Band (NARROW)	a/b/c/d/e/f	クリアチャンネルスキャンを使うことによって、他の無線機器からの影響を回避するのに適したモードです。

ご注意

多チャンネル（最大 6 チャンネル）で運用する場合には、Wide Band と Narrow Band の 2 つの RF モードを同時に使用することはできません。どちらか一方の RF モードを選択して運用してください。

RF モードを選択する

- POWER/MUTING（電源 / 消音）ボタンを長押しして、電源を切る。
- チャンネル選択ボタンを押しながら、POWER/MUTING（電源 / 消音）ボタンを長押し（約 1 秒）する。
チャンネル表示部に「0」が点滅します。
- チャンネル選択ボタンを押して、「1」または「a」を選択する。
- チャンネル選択ボタンを長押しする。

チャンネルを選択する

- 電源 ON 時に、チャンネル選択ボタンを長押しする。
チャンネル表示部の表示が点滅します。
- チャンネル選択ボタンを押して、チャンネルを選択する。
- チャンネル選択ボタンを長押しして、チャンネルの選択を確定させます。

ご注意

送信機のチャンネルを変更した場合は、受信機も同じチャンネルに設定してください。受信機と送信機のチャンネルが一致していないと、音声が出ません。

チャンネル表示

送信機のチャンネル表示部では、各チャンネル番号が以下のように表示されます。

RF モード	チャンネル番号		
Wide Band (WIDE)	1	2	3
	4	5	6
Narrow Band (NARROW)	a	b	c
	d	e	f

チャンネル周波数リスト

Wide Band (WIDE、チャンネル1～6) および Narrow Band (NARROW、チャンネルa～f) で使用される周波数は以下のとおりです。

信頼性および冗長性を高めるために、それぞれのチャンネルでは互換性のある複数の周波数を使用します。そのなかから周囲の無線環境に応じた周波数が使用されます。

ご注意

通信品質を確保するために、受信機や送信機は無線ルーターやコンピューターの近くに置かないでください。

Wide Band

- Wi-Fi と共に可能



- 遅延時間：約 6 ミリ秒

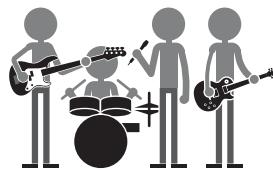
チャンネル番号	周波数
1	2402
	2478.5
2	2421.5
	2472.5
3	2427.5
	2475.5
4	2424.5
	2446.5
5	2449.5
	2469.5
6	2405
	2452.5

(単位 : MHz)

Wide Band (WIDE) は、無線周波数についての技術的な知識を持っていなくても、他の無線機器への影響を抑えられるモードです。Narrow Band と比べ、より安定した通信のために信号処理を追加しています。音声遅延時間は約 6 ミリ秒です。

Narrow Band

- 周波数の割り振りが可能



- 遅延時間：約 3 ミリ秒

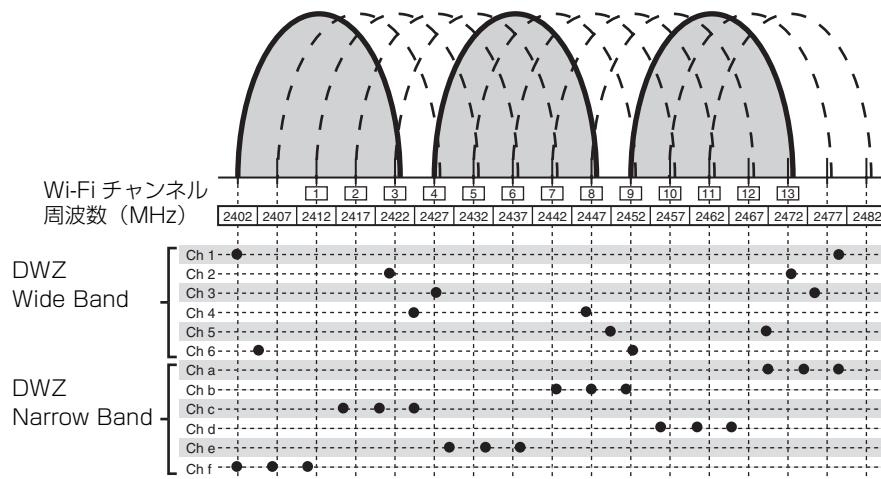
チャンネル番号	周波数
a	2469.5
	2474
	2478.5
b	2442.5
	2447
	2451.5
c	2415.5
	2420
	2424.5
d	2456
	2460.5
	2465
e	2429
	2433.5
	2438
f	2402
	2406.5
	2411

(単位 : MHz)

Narrow Band (NARROW) は、照明装置の操作に使用する 2.4GHz の無線リモコンなど、他の無線機器からの影響を回避するのに適したモードです。複数の無線システムを使用する場合は、このモードを使って周波数が重ならないように調整できます。音声遅延時間は約 3 ミリ秒です。

Wi-Fi チャンネル

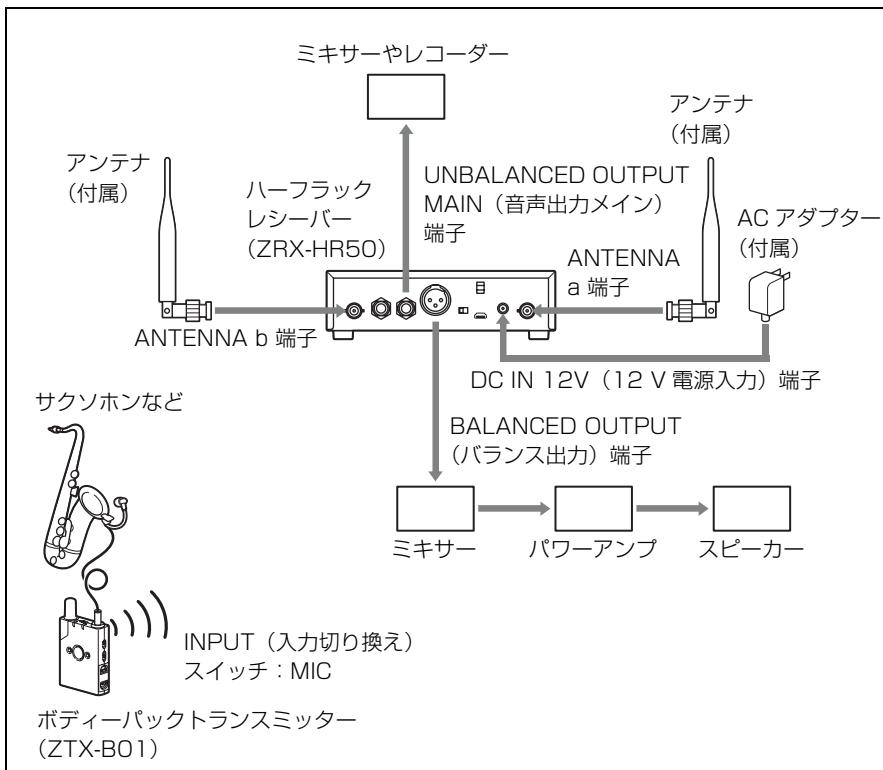
各 Wi-Fi チャンネルがカバーする周波数は以下のとおりです。一般的に使われることが多いチャンネル 1、6、11 がカバーする範囲をグレーにしています。



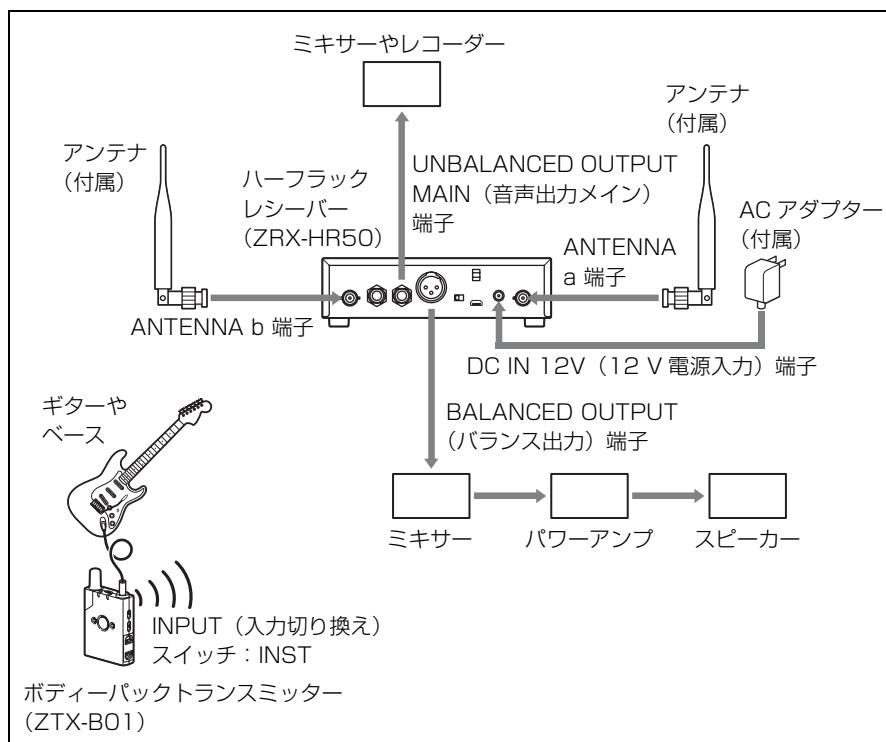
システム構成例

以下のシステム構成は、DWZ シリーズの使用例です。

DWZ-B50I の使用例



DWZ-B50GB の使用例



故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電池の \oplus と \ominus が逆になっている。	正しい方向に入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	スイッチ類がロックされている。	誤操作防止スイッチをUNLOCKにしてください。
電池がすぐになくなる。	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	マンガン乾電池を使用している。	マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。
	寒い環境で使用している。	低温時は、電池寿命が短くなります。
音が出ない。	送信機と受信機のRFモードまたはチャンネルが違っている。	送信機と受信機のRFモードおよびチャンネルを合わせてください。
	ミューティングの設定になっている。	ミューティングを解除してください。
音が小さい。	送信機のアッテネーターの設定値が大きい。	入力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください。
	受信機の出力レベルと接続機器の入力レベルの設定が合っていない。	MIC/LINEセレクターを接続機器の入力レベルに合わせて選択してください。(ZRX-HR50)

症状	原因	対策
音が歪む。	送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または0である。	音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください。
	送信機がMIC入力に設定されている。	音声が過大入力です。INST入力に設定してください。
	受信機の出力レベルと接続機器の入力レベルの設定が合っていない。	MIC/LINEセレクターを接続機器の入力レベルに合わせて選択してください。(ZRX-HR50)
ノイズが発生する。	送信機と受信機の距離が遠い。	音途切れが発生しない距離まで送信機と受信機を近づけてください。
	ほかの機器の電波と干渉している。	チャンネルを変更するか、干渉している機器から本機を離してください。
	2台以上の送信機が同じチャンネルに設定されている。	同一チャンネルで2台以上の送信機は使用できません。
	Wide BandとNarrow Bandのチャンネルを同時に使用している。	同時に複数のチャンネルを使用する場合は、Wide BandまたはNarrow BandどちらかのRFモードに合わせてください。
サービスエリア（使用範囲）が狭い。	受信機にアンテナが取り付けられていない。	付属のアンテナを取り付けてください。
	アンテナを握っている。	アンテナから手を離してください。
音質がおかしい。	イコライザー設定が不適切。	イコライザーの設定を0にしてください。(ZRX-HR50)
POWERスイッチを押しても電源が切れない。	スイッチ類がロックされている。	誤操作防止スイッチをUNLOCKにしてください。
	RFモードの設定をしている。	RFモードの設定中は、電源を切ることができません。チャンネル選択ボタンを長押しして設定を完了させてから電源を切ってください。(ZTX-B01)

症状	原因	対策
チャンネルの変更ができない。	スイッチ類がロックされている。	誤操作防止スイッチを UNLOCK してください。
	設定メニューに入っていない。	14 ページの「設定メニューを表示する」および「受信チャンネルを設定する」にしたがって設定します。(ZRX-HR50)
送信機の電源を切っても、受信機の RF インジケーターが点灯している。	妨害電波が出ている。	まず、受信機を RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定し、次に、送信機を同じチャンネルに設定してください。

使用上のご注意

本機が使用する 2.4 GHz 帯は、ご使用の環境やほかの無線局からの妨害により、使用範囲が狭くなったりノイズが発生する場合があります。その際はほかの無線局との距離を離したりチャンネルを変更することで改善することがあります。

- この機器の近くで「ほかの無線局」が運用されている場合は、なるべく距離を離すか、使用するチャンネルや RF モードを変更する。
- それでも改善されない場合は、いずれかの機器の運用を停止（電波の発射を停止）してみてください。

ご注意

複数の送信機を使用した際の相互干渉や、RF の過大入力などによるオーディオノイズを回避するため、送信機と受信機の距離を 30 cm 以上離してご使用ください。

使用・保管場所

- DWZ シリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。

- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

主な仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

送信機（ZTX-B01）

本機は、電波法により工事設計の認証を受けております。

本機の工事設計の認証番号は、機銘板に表示されております。機銘板をはがしたり、本機の内部やアンテナを改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

なお、本機の使用にあたっては免許は不要です。

本機使用上のご注意

この機器の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、「ソニー業務用商品相談窓口」までお問い合わせください。

2.4 X X 8

この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として周波数変調方式を採用し、与干渉距離は 80 m です。

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかるわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

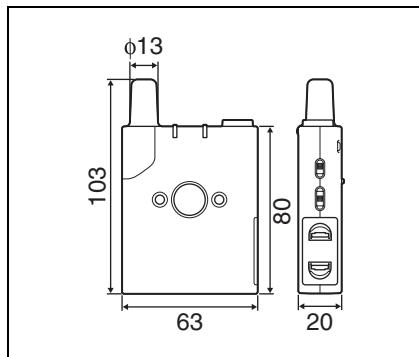
DWZ-B50I/B50GB

使用周波数範囲	2402.0 MHz ~ 2478.5 MHz
占有周波数帯幅	2.5 MHz
電波型式	F1D および F1E
変調方式	GFSK
許容動作温度	0 °C ~ 50 °C
許容保存温度	- 20 °C ~ +60 °C
遅延時間	約 6 ミリ秒 (Wide Band) 約 3 ミリ秒 (Narrow Band)

ボディーパックトランスマッタ (ZTX-B01)

RF 出力レベル	10 mW (e.i.r.p.)
アンテナ	$\lambda/4$ モノポールアンテナ
周波数特性	10 Hz ~ 22 kHz
最大入力レベル	MIC : - 22 dBu INST : +8 dBu (アッテネーター・レベル : 0 dB 時)
基準入力レベル	MIC : - 58 dBu INST : - 28 dBu (アッテネーター・レベル : 0 dB 時)
ダイナミックレンジ	MIC : 102 dB (A-weighted) INST : 98 dB (A-weighted)
電源	3.0 V DC (単3形アルカリ乾電池 (LR6) 2本)
電池持続時間	連続使用約 10 時間 (外気温 25 °C、ソニー単3形アルカリ乾電池使用時)

外形図

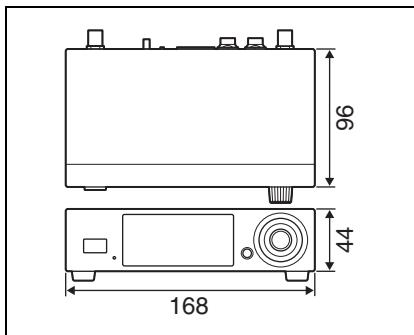


寸法	63 × 80 × 20 mm (幅 ／高さ／奥行き) (アンテナ含まず)
質量	約 156 g (乾電池含む)

ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50)

受信方式	スペースダイバーシティ
アンテナ a/b 端子	BNC-R, 50 Ω
周波数特性	10 Hz ~ 22 kHz
最大出力レベル	Balanced Output MIC : - 22 dBu LINE : + 24 dBu Unbalanced Output : + 8 dBu
基準出力レベル	Balanced Output MIC : - 58 dBu LINE : - 12 dBu Unbalanced Output : - 28 dBu
電源	外部 DC 入力 : DC 12 V
消費電流 (DC 12 V 入力時)	220 mA

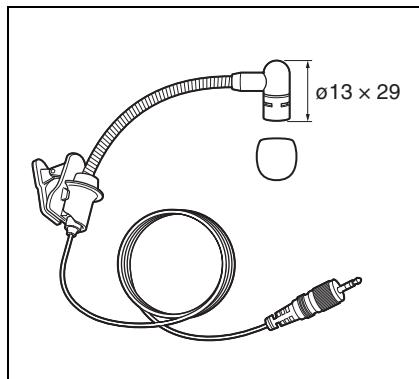
外形図



外形寸法	168 × 44 × 96 mm (幅／高さ／奥行き)
質量	約 510 g

マイクロホン (ECM-GZ1UBMP)

形式	エレクトレットコンデンサー型
周波数特性	20 Hz ~ 22,000 Hz
指向特性	単一指向性
正面感度	- 55.0 dB ± 3.0 dB (1 kHz/Pa)
許容動作温度	0 °C ~ 50 °C
許容保存温度	- 20 °C ~ + 50 °C
ケーブル長	約 1.8 m
外形図	



外形寸法	Ø 13 × 29 mm
質量	約 25 g (ケーブルとコネクターを除く)

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご
要望により有料修理させていただきま
す。

保証期間中の修理など、アフターサービ
スについてご不明な点は、お近くのソ
ニーの営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>